

「川に学ぶ体験活動協議会」活動紹介

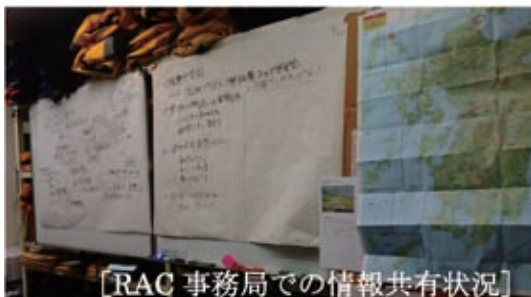
NPO 法人川に学ぶ体験活動協議会 事務局長 齊藤 隆

川に学ぶ体験活動協議会（略称 RAC）は、「川の指導者」の育成や様々な活動を通じて川と人々との関係をより深いものにしていくことを目的として、平成 12 年 9 月に設立され、平成 28 年 9 月現在 100 団体によって構成されています。

今回も直近の活動と今年度の取組予定についてご紹介します。

【RAC 熊本地震救援活動について】

熊本や宮崎では RAC 構成団体や RAC 指導者の多い地域でもあり、川での体験活動が様々な方法で展開されていました。そんな中、4 月 16 日未明に発生した本震の被害状況が明らかになるにつれ、「RAC としても熊本の川の指導者のみなさんを支援できないか」という思いが RAC 関係者の間で大きくなっていました。しかし、いざ救援活動をしようにと思っても、刻々と変る状況で何が何処でどれくらい必要か等の情報を把握することは難しく、その上、情報が入ったとしても現地で受け入れてくれる「人」がいなければ、思いをつなぐことは困難です。今回の熊本地震では、幸か不幸か被災地には、川の指導者の中でも、日頃から日常的に、研修や現場活動等へ定期的に参加するメンバーも多く、facebook 等で様々な情報を共有している方も多数存在していました。そのメンバーとの連絡がつながるにつれて、その方々の関わる避難所等で必要な支援物資の数量や種類などを把握することができました。そして宮崎や鹿児島、福岡、大分等の周辺地域のメンバーが、早くも 4 月 19 日には物資の調達や搬送を行い、そしてその後も全国の川仲間からの救援物資の中継拠点として活躍されることで、行政からの支援の滞りがちな発災直後の救援活動に貢献させて頂く機会となりました。また支援活動と並行して、各地の仲間が手分けして、支援物資発送の際の貼り付け用紙をつくり、



【RAC 事務局での情報共有状況】

「RAC 救援隊支援ネットワーク」として facebook ページを機能させたり、目印となる幟旗やビブス救援車に張り付けるプレート等をデザイン・発注していただいたことも、迅速な支援活動へ大きく貢献した要因といえます。また全国の沢山の川仲間から 4 月 26 日までに合計 739,097 円の支援金をお送り頂き、救援物資の調達費用を賄うことも出来ました。

救援物資へのニーズがひと段落した後は、物から人への支援へと緩やかに移行し、江津湖でのカーン体験等へも支援しています。未だ多くの子どもが避難所生活など被災地で不便な生活を強いられている状況もありますので、クラウドファンディングを通じて、キャンプ等の自然体験活動への支援を現地のメンバーと継続して展開中です。



【九州チーム搬送・スノーピーク提供テント】

【今年度の RAC フォーラム開催予定について】

RAC フォーラムでは、RAC 指導者や水辺体験活動に関心のある方を対象に、指導者としての質的向上を目指して研修を実施しています。そして災害時などいざというときに機能できる顔のみえる関係づくりへとつなげることもねらいとしています。

今年度は、平成 29 年 3 月 4 日（土）5 日（日）に東京にて開催の予定です。

これらの活動を通じ、川のリスクと危険回避方法が普及し、川での体験をする機会が増え、川と人々が共存できる「川に学ぶ社会」へ、一歩でも近づくことが出来れば幸いです。

《 NPO 法人川に学ぶ体験活動協議会 》

東京都北区田端 1-11-1 勘五郎ビル 104

TEL.03-5832-9841 FAX.03-6893-2642

<http://www.rac.gr.jp>